

透析室の移転に伴う透析液清浄化体制の構築

東京女子医科大学 臨床工学部¹ 臨床工学科² 血液浄化療法科³

○友方一人 (トカ 加ト)¹ 鈴木万恭子¹ 横手卓也¹ 若山功治¹ 石森 勇¹ 村上 淳¹
金子岩和¹ 木全直樹³ 峰島三千男² 秋葉 隆³

【背景と目的】

東京女子医科大学病院透析室は 1980 年 7 月から約 30 年間、東病棟 4 階にて血液浄化療法を施行してきたが、2010 年 3 月末に新たに完成した第 1 病棟の 2 階に移転した。新病棟の建築計画初期の段階から、透析液の清浄化を念頭に置いた根本的な透析液清浄化システムの構築を目指し、様々な取り組みを行ってきたので報告する。

【方法】

透析装置は全台個人用(DBG-03)、省力化と省スペースのため原液集中配管を採用し、毎日配管の自動洗浄が可能なシステムを構築した。

水処理装置(日機装社製 DRO-EX343-H)のカーボンフィルタ以降および RO 水配管の熱水消毒が施行可能であり、配管素材は清浄性の保持に優れる PVDF 配管を採用した。また、原液集中配管使用時および処方原液使用時の吸い口に関しては、メーカー推奨品の使用などに疑問があったため、当施設独自の運用法を検討した。

【結果、考察】

原液集中配管の自動洗浄が可能になったことにより、今まで日曜日に出勤し手動により施行していた作業が、いつでも曜日を問わず簡便に施行可能となった。また、水処理装置のカーボンフィルタ以降および RO 水配管の熱水消毒が自動で定期的に施行されるため、今までと比較し、透析液の清浄化管理も効率よく行える体制となった。

【結語】

透析液清浄化のもたらす様々な臨床効果については、今更述べるまでもなく、多くの施設でこれが達成されることを推進するため、今年度の診療報酬改定により、透析液水質確保加算も新設された。ここでは明確な透析液の水質基準は示されていないが、今後どのような基準が設定されたとしても全く問題のないよう、今後も透析液の清浄化に努めていきたい。